
お 知 ら せ

~~~~~

### § 医薬品・医療用具等安全性情報 (厚生労働省医薬食品局)

平成 16 年 6 月 No. 202

~~~~~

医薬品・医療用具等安全性情報No.202が発行されました。その概要は以下のとおりです。詳細は次の雑誌に掲載されますので、関連症例等についてはこれらをご参照下さい。

日本医師会雑誌（7月1日号）（1，2のみ）	クリニカル プラクティス（8月号）
日本薬剤師会雑誌（8月号）（1，2のみ）	月刊薬事（8月号）
日本病院薬剤師会雑誌（8月号）	診療と新薬（7月号）

NTTのファクシミリ通信網サービス「Fネット」を通じ、最近1年間の「医薬品・医療用具等安全性情報」がお手元のファクシミリから随時入手できます（利用者負担）。既に、Fネットに加入されている方は、次の操作番号で目次を引き出して下さい。162# 284 03 3508 4364 01#（Fネットへの加入等についての問い合わせ先は☎0120-161-011）

なお、医薬品医療機器情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）又は厚生労働省ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/>）からも入手可能です。

1. 取り違えることによるリスクの高い医薬品に関する安全対策について

「処方点検や調剤時、病棟への供給時に注意を要する医薬品」（日本病院薬剤師会）にも示されているとおり、取り違えにより重大な事故につながるおそれのある医薬品はある程度絞られており、これら注意を要する医薬品については、採用状況の確認、間違い防止策の確認を今までもお願いしてきたところである。

今般、医療安全対策検討会議医薬品医療用具等対策部会の「医薬品類似性検討ワーキンググループ」での議論も踏まえ、事故防止の観点から表示の改善が図られたので紹介するとともに、医療機関における安全対策の徹底について重ねてお願いする。

2. 重要な副作用等に関する情報

前号（医薬品・医療用具等安全性情報 No.201）以降に改訂を指導した医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について、改訂内容、参考文献等とともに改訂の根拠となった症例の概要に関する情報を紹介する。

1 インフリキシマブ（遺伝子組換え）

2 メシル酸イマチニブ

3 リン酸オセルタミビル

3. 使用上の注意の改訂について（その156）

次の医薬品等について「使用上の注意」の改訂内容等を記載している。

クエン酸タンドスピロン，塩酸クロミブラミン（経口剤），塩酸イミブラミン，塩酸クロミブラミン（注射剤），塩酸ミルナシプラン，マレイン酸フルボキサミン，塩酸ドネベジル

§ 医薬品・医療用具等安全性情報

(厚生労働省医薬食品局)

平成 16 年 7 月 No. 203

医薬品・医療用具等安全性情報No.203が発行されました。その概要は以下のとおりです。詳細は次の雑誌に掲載されますので、関連症例等についてはこれらをご参照下さい。

日本医師会雑誌（8月1日号）（1，2のみ）	クリニカル プラクティス（9月号）
日本薬剤師会雑誌（9月号）（1，2のみ）	月刊薬事（9月号）
日本病院薬剤師会雑誌（9月号）	診療と新薬（8月号）

NTTのファクシミリ通信網サービス「Fネット」を通じ、最近1年間の「医薬品・医療用具等安全性情報」がお手元のファクシミリから随時入手できます（利用者負担）。既に、Fネットに加入されている方は、次の操作番号で目次を引き出して下さい。162# 284 03 3508 4364 01#（Fネットへの加入等についての問い合わせ先は☎0120-161-011）

なお、医薬品医療機器情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）又は厚生労働省ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/>）からも入手可能です。

1. 医薬品による重篤な皮膚障害について

医薬品の副作用として皮膚障害が発現することは、よく知られているところである。皮膚障害のうち重篤なものとして、スティーブンス・ジョンソン症候群〔皮膚粘膜眼症候群：Stevens-Johnson syndrome (SJS)〕、中毒性表皮壊死症（toxic epidermal necrolysis：TEN）がある。

SJS、TENについては、医薬品・医療用具等安全性情報No.163（平成12年11月号）及びNo.177（平成14年5月号）において、その病態等の説明とともに、平成9年度から平成12年度までに厚生省（当時）へ報告されたこれらに関する副作用症例報告の状況等を紹介しているところであるが、その後の厚生労働省への副作用症例報告を踏まえ、改めて注意を喚起することとした。

2. 盗難防止装置等による電波の医用機器への影響

盗難防止装置等による植込み型心臓ペースメーカ及び植込み型除細動器への影響については、医薬品等安全性情報No.155（平成11年6月号）並びに医薬品・医療用具等安全性情報No.173（平成14年1月号）及びNo.190（平成15年6月号）において注意喚起してきたところである。

総務省において、平成14年度より2年間にわたり「電波の医用機器等への影響に関する調査研究」が実施され、今般、盗難防止装置等から発射される電波の植込み型の医用機器（心臓ペースメーカ及び除細動器）に及ぼす影響についての調査が電波産業会によってまとめられた。この調査研究の調査結果によると、医薬品・医療用具等安全性情報No.173において紹介した指針は妥当であることが確認されたことから、当該報告の内容について紹介し、改めて医療関係者等に注意喚起を行うこととした。

3. 重要な副作用等に関する情報

前号（医薬品・医療用具等安全性情報 No.202）以降に改訂を指導した医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について、改訂内容、参考文献等とともに改訂の根拠となった症例の概要に関する情報を紹介する。

- 1 オレイン酸モノエタノールアミン
- 2 クラリスロマイシン
- 3 テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム
- 4 メルファラン（注射剤）

4. 使用上の注意の改訂について（その157）

次の医薬品等について「使用上の注意」の改訂内容等を記載している。

塩酸ミルナシプラン、オランザピン、ダントロレンナトリウム（経口剤）、臭化ジスチグミン（経口剤）、メルファラン（経口剤）、ラミブジン（100mg）、塩酸オキシコドン


~~~~~  
§ 医薬品・医療用具等安全性情報  
(厚生労働省医薬食品局)

平成 16 年 9 月 No. 205  
~~~~~

医薬品・医療用具等安全性情報No.205が発行されました。その概要は以下のとおりです。詳細は次の雑誌に掲載されますので、関連症例等についてはこれらをご参照下さい。

日本医師会雑誌 (10月1日号) (1, 2のみ)	クリニカル プラクティス (11月号)
日本薬剤師会雑誌 (11月号) (1, 2のみ)	月刊薬事 (11月号)
日本病院薬剤師会雑誌 (11月号)	診療と新薬 (10月号)

NTTのファクシミリ通信網サービス「Fネット」を通じ、最近1年間の「医薬品・医療用具等安全性情報」がお手元のファクシミリから随時入手できます(利用者負担)。既に、Fネットに加入されている方は、次の操作番号で目次を引き出して下さい。162# 284 03 3508 4364 01# (Fネットへの加入等についての問い合わせ先は☎0120-161-011)

なお、医薬品医療機器情報提供ホームページ (<http://www.info.pmda.go.jp/>) 又は厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/>) から入手可能です。

1. 平成15年度インフルエンザワクチンの副反応の報告等について

平成15年度におけるインフルエンザワクチンの副反応の報告状況及び安全対策をまとめたので紹介する。

平成15年度のインフルエンザワクチンの推定出荷本数は、約1,463万本であり、薬事法に基づく副作用等報告による副反応は、162症例、259件(注射部位の発赤・腫脹等26件、発熱18件、ショック・アナフィラキシー様症状14件、肝機能障害12件、発疹等12件、意識消失等9件、関節痛7件、筋痛7件、ギラン・バレー症候群7件、痙攣7件、喘息6件、下痢5件、他)であった。

2. 塩酸チクロピジン製剤とCypherステントの市販後安全対策について

塩酸チクロピジンの安全対策については、医薬品等安全性情報No.156（平成11年8月号）及び緊急安全性情報（平成11年6月30日，平成14年7月23日）において適正使用をお願いしてきたところであるが，今般，Cypherステントの承認に伴い，当該ステントを用いた冠動脈ステント治療の安全対策のため，関係企業に対して，適正使用の徹底を通知するとともに，都道府県，関係学会及び関係団体に対して協力依頼・周知をお願いしたので，当該通知の内容を紹介し，改めて医療関係者に注意喚起することとした。

3. 重要な副作用等に関する情報

前号（医薬品・医療用具等安全性情報 No.204）以降に改訂を指導した医薬品の使用上の注意のうち重要な副作用等について，改訂内容，参考文献等とともに改訂の根拠となった症例の概要に関する情報を紹介する。

■ タクロリムス水和物（経口剤，注射剤）

4. 使用上の注意の改訂について（その159）

次の医薬品等について「使用上の注意」の改訂内容等を記載している。

セボフルラン，ロルノキシカム，プロピオン酸ベクロメタゾン（口腔用吸入剤），エレンターールP，アスピリン（腸溶錠），アスピリン・ダイアルミネート（81mg錠），塩酸チクロピジン，モンテプラーゼ（遺伝子組換え），クラドリピン，ホスホマイシンナトリウム（注射剤），硫酸アタザナビル，メベンダゾール，イオパミドール，イオプロミド，イオメプロール

~~~~~  
§ 医薬品・医療用具等安全性情報

(厚生労働省医薬食品局)

平成 16 年 11 月 No. 206  
~~~~~

医薬品・医療用具等安全性情報No.206が発行されました。その概要は以下のとおりです。詳細は次の雑誌に掲載されますので、関連症例等についてはこれらをご参照下さい。

日本医師会雑誌 (11月1日号)

クリニカル プラクティス (12月号)

日本薬剤師会雑誌 (12月号)

月刊薬事 (12月号)

日本病院薬剤師会雑誌 (12月号)

診療と新薬 (11月号)

NTTのファクシミリ通信網サービス「Fネット」を通じ、最近1年間の「医薬品・医療用具等安全性情報」がお手元のファクシミリから随時入手できます(利用者負担)。既に、Fネットに加入されている方は、次の操作番号で目次を引き出して下さい。162# 284 03 3508 4364 01# (Fネットへの加入等についての問い合わせ先は☎0120-161-011)

なお、医薬品医療機器情報提供ホームページ (<http://www.info.pmda.go.jp/>) 又は厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/>) から入手可能です。

1. 注射用抗生物質製剤等によるショック等に対する安全対策について

社団法人日本化学療法学会において皮内反応の有用性に関する検証が行われ、皮内反応の中止及びそれに代わるショック等に対する安全対策に関する提言がまとめられたこと及びこれを受けて、財団法人日本抗生物質学術協議会からも皮内反応の廃止を求める要望書が提出されたことから、薬事・食品衛生審議会の専門委員による検討を行ったので、その結果等についてお知らせするとともに、注射用抗生物質製剤等の適正な使用についてお願いする。

2. イレッサ錠 250プロスペクティブ調査（特別調査）調査報告書について

ゲフィチニブは、「手術不能又は再発非小細胞肺癌」を効能・効果とする抗悪性腫瘍剤であり、平成14年7月5日に海外に先駆け我が国で初めて承認された。

ゲフィチニブによる「間質性肺炎」については、承認時より添付文書の「重大な副作用」の項に記載して医療関係者に注意を喚起していたが、同年7月16日の販売から間質性肺炎を含む肺障害が厚生労働省に報告され、同年10月15日に急性肺障害、間質性肺炎について「緊急安全性情報」を配布し、医療関係者に注意を喚起した。更に、同年12月25日に医学・薬学等の専門家等からなる「ゲフィチニブ安全性問題検討会」を開催し、更なる適正使用の措置がとられた。

その指示に基づくプロスペクティブ調査の結果がまとまり報告されたので、紹介する。

3. 血糖検査用グルコースキットの安全対策について

糖尿病の治療は、合併症の発症を抑制するためにも食事療法、運動療法及び薬物療法による血糖コントロールが基本である。血糖コントロールの指標としては、血糖値やHbA_{1c}が測定されるが、近年、簡易血糖自己測定器の開発により自宅でも血糖検査が行われるようになってきている。

今般、簡易血糖自己測定器を使用した患者で、低血糖を発症した事例等が報告されたことから、その原因等の分析を行い、安全対策として添付文書の改訂を行ったので紹介する。

(No. 204, No. 207 はダイジェスト版なしのため、掲載しません)



日本医学会だより

JAMS News

日本医学会 2004年10月 No.32

第127回日本医学会シンポジウム

「医学・医療安全の科学」をテーマに、2004年8月27日～29日、パレスホテル箱根において開催した。組織委員は、清水孝雄（東大院・生化学・分子生物学）、永井良三（東大附属病院長）、飯塚悦功（東大院・化学システム工学）、上原鳴夫（東北大学院・国際保健学）の各氏であった。

プログラムは、医学研究における安全性、医療安全の課題、医療安全への工学アプローチ、医療安全とシステムの4部構成で行われた。特に、医学・医療のみならず、工学との連携により、安全のシステムの共有化等々が論じられた。

シンポジウムの記録集（謹呈）は、2月頃に刊行予定しているので、希望者は日本医学会宛、郵便はがきで申し込まれたい。

第128回日本医学会シンポジウム

「糖尿病と動脈硬化」をテーマに、2004年12月2日（木）、日本医師会大講堂において開催。組織委員は、春日雅人、岩本安彦、永井良三の各氏。参加希望者は、郵便はがきで申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。

I. 疫学と病態生理

1. 糖尿病と動脈硬化：疫学からの視点/清原 裕（九州大・病態機能内科）
2. 動脈硬化の病態生理：糖尿病における特徴/上田真喜子（阪市大・病理病態）
3. 糖尿病による動脈硬化の機序/齋藤 康

（千葉大・細胞治療）

II. 脂質代謝とアディポサイトカイン

1. 糖尿病における血清脂質のコントロール/寺本民生（帝京大・内科）
2. アディポネクチンと糖尿病・心血管病の分子メカニズム/門脇 孝（東大・糖尿病・代謝内科）
3. アディポサイトカインと血管障害/船橋徹（阪大・分子制御内科）
4. プラークの形成と退縮の分子機序/石橋俊（自治医大・内分泌代謝）

III. 糖尿病の循環器合併症

1. 動脈硬化を予防するための糖尿病診療ガイドライン/野田光彦（虎の門病院・内分泌代謝）
2. 糖尿病診療からみた循環器合併症/山田信博（筑波大・内分泌代謝・糖尿病内科）
3. 循環器診療からみた糖尿病/山崎 力（東大・クリニカルバイオインフォマティクス）

医学賞・医学助成費の決定

選考委員会を9月8日に開催し、平成16年度の日本医師会医学賞・医学研究助成費の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞19、助成費36を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、医学賞は3名、助成費は15

件を授与することになった。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・成人脳における神経幹細胞の同定と中枢神経系の再生医学/岡野栄之(慶應大・生理学)
- ・新規ホルモン, ナトリウム利尿ペプチドとレプチン, の Translational Research/中尾一和(京大・内分泌・代謝内科学)
- ・尿路結石症の病態解明と予防法への応用研究/郡 健二郎(名市大・腎・泌尿器科学)

〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・転写因子 E2F-1 の発癌における役割の解明と癌予防への応用/古川雄祐(自治医大分子病態治療研・幹細胞制御)
- ・成体心臓組織幹細胞の細胞株化と心筋細胞への分化の分子機序および誘導因子の解明/永井敏雄(千葉大・循環器内科学)
- ・消化管シグナルによる膵β細胞・脂肪細胞の機能関連とその破綻/山田祐一郎(京大・糖尿病・栄養内科学)
- ・網膜色素変性症に対する人工網膜開発に関する基礎的研究/不二門 尚(阪大・眼科学)
- ・緑内障感受性遺伝子多型の解明と個別化医療による失明予防/真島行彦(慶應大・眼科学)
- ・オレキシン及びノルアドレナリンを指標とした乳幼児突然死症候群における覚醒不全の検証/澤口聡子(東女医大・法医学)
- ・動脈硬化進展を抑制する新たな血液凝固調節因子の同定とその臨床応用に関する研究/東博之(徳島大・生体情報内科学)
- ・劇症1型糖尿病患者膵に発現する遺伝子の網羅的検討/今川彰久(阪医大・内科学)
- ・ヒト心筋及び骨格筋から心筋再生医療に用いる心筋幹細胞株の樹立/王 英正(京大・探索医療センター)
- ・HYPOXIA RESPONSIVE ELEMENT を利用した生体内低酸素モニタートランスジェニック

動物による, 進行性腎疾患での虚血状態の意義の解明/南学正臣(東大・腎臓・内分泌内科学)

- ・骨髄幹細胞と生分解性素材を用いた再生血管の作成と臨床応用/新岡俊治(東女医大・心臓血管外科学)
- ・不活化単純ヘルペスウイルスを用いた癌免疫療法の確立と臨床応用/戸田正博(慶應大・脳神経外科学)
- ・発癌機構の解析に基づく Ewing 肉腫の分子標的治療の開発/岩本幸英(九州大・整形外科科学)
- ・造影剤+超音波による NFκB-decoy-HGF 遺伝子同時導入: 移植腎長期生着の試み/東治人(阪医大・泌尿器科学)
- ・眼光学系および視覚の質に関する定量的解析/大鹿哲郎(筑波大・眼科学)

◆日本医学会あり方委員会

今年度, 日本医学会あり方委員会を発足した。現在, 委員会で日本医学会シンポジウム, 日本医学会新規加盟についての見直しを行っている。

シンポジウムについては, 社会との繋がりを目指して, 一般市民への啓蒙活動になることを将来展望としたい。

◆専門医制

専門医制については, 広告規制が緩和されたことにより, すでに厚生労働省において, 「専門医資格」の広告が認められている。がしかし, 外形基準を満たした学会の届け出によるその専門医資格が必ずしも, 専門医制を承認されたとはいえない。さらに今後, 専門医制について検討をしていく必要があろう。

◆情報発信

日本医学会の情報は, ホームページの www.med.or.jp/jams/ をご覧いただきたい。

§ 第 42 回アイソトープ・放射線 研究発表会 発表論文の募集

この研究発表会は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、アイソトープと放射線の理工学、ライフサイエンス、薬学、医学への利用技術を中心とした研究およびその基礎となる研究の発表と討論を行い、各分野間の知見と技術の交流を図るものです。奮ってご応募、ご参加下さいますようご案内いたします。

なお、名称が第 41 回までの「理工学における同位元素・放射線研究発表会」から変更されました。

会期 2005 年 7 月 6 日 (水)～7 月 8 日 (金)

会場 日本青年館
(東京都新宿区霞ヶ丘町 7 番 1 号)

- (1) 内容 それぞれの研究分野において、その専門的な成果を得た放射性同位体、安定同位体や放射線の利用研究、およびこれら利用の基礎となる研究。内容には少なくとも一部に未発表の部分が含まれていること。
- (2) 発表申込区分
 1. 基礎データ
 2. 放射線測定機器・測定法
 3. 分析 (放射化分析, 放射化学分析など)
 4. トレーサ利用
 5. 製造・分離・標識化
 6. 線源・加速器
 7. 放射線利用機器 (ラジオグラフィ, エネルギー利用, 発光塗料等も含む)
 8. 陽電子消滅
 9. メスバウア効果
 10. 放射線管理 (汚染除去, 健康管理, 安全取扱, 廃棄物処理, 運搬, 遮へい, コンピュータによる管理等)
 11. 地球科学・宇宙科学
 12. 環境放射能
 13. ライフサイエンスへの利用

14. 薬学への利用
15. 医学への利用
16. 安定同位体
17. 放射線教育
18. 放射線効果
19. コンピュータ利用 (シミュレーション, データ処理, 解析技術等)
20. その他

(3) 発表者の資格 発表者の 1 人が本発表会の主・共催学・協会の会員であること。

(4) 発表形式 口頭発表またはポスター発表

(5) 口頭発表時間

1 件 15 分 (発表 12 分, 討論 3 分)

Power Point (Microsoft 社製 Windows 用) による発表が可能です。ただし読み取り不良等の場合を想定し、必ず OHP シートのコピーもバックアップ用にご準備下さい。

(6) ポスター発表 申込区分はありません。

(7) 発表申込み 日本アイソトープ協会ホームページ (<http://www.jrias.or.jp/>) 上からお申し込み下さい。ホームページをご利用になれない方は下記にお問い合わせ下さい。

(8) 発表申込締切 **2005 年 2 月 28 日 (月)**

(9) 講演要旨 口頭発表, ポスター発表とも、1 件につき A4 判用紙 1 枚。要旨原稿の書き方と見本は、日本アイソトープ協会ホームページに掲載されます。

(10) 講演要旨原稿締切

2005 年 4 月 15 日 (金) 必着

(11) 参加費 2,000 円 (学生は無料)

要旨集 4,000 円 (消費税含む)

その他

(1) 論文集は発行しませんが、日本アイソトープ協会が発行する学術論文誌 RADIOISOTOPES に投稿できます。

(2) 発表申込件数、発表内容などによっては口頭発表からポスター発表に、または、ポスター発表から口頭発表への変更をお願いすることがあります。

連絡・問合せ先

アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会
〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45
日本アイソトープ協会学術課 西島
TEL 03-5395-8081 FAX 03-5395-8053
E-mail gakujutsu@jrias.or.jp
URL <http://www.jrias.or.jp/>

S 独立行政法人放射線医学総合研究所 研究員の公募について

①所属・職名

重粒子医科学センター脳機能イメージング
研究開発推進室チームリーダー 1名

業務内容

- (1) PET を用いた神経伝達物質受容体及び人間を対象にした新規リガンドの研究.
- (2) 複数の大学院生の臨床研究遂行の指導.
- (3) 国内及び国際共同研究を主導し、民間との共同研究にも積極的に取り組む.

報酬

当研究所が独自に定めた、一般職の国家公務員(研究職)と同等の給与体系による.

応募資格

- (1) PET を用いた脳機能画像の解析に精通しており、特に脳内神経伝達物質受容体研究に専門知識を有すること.
- (2) 日本の医師免許を有し、医学博士の学位を有すること.
- (3) 精神・神経疾患の臨床研究の経験を有することが望ましい.

②所属・職名

重粒子医科学センター画像医学部臨床応用
研究室研究員(任期付) 1名

業務内容

- (1) 分子腫瘍学に基づくがんイメージング技術・臨床応用の開発研究.
- (2) 実験動物によるがんイメージングのための

基礎研究及び前臨床研究.

- (3) がんイメージング用分子プローブの開発のための基礎的検討.

報酬

当研究所が独自に定めた、一般職の国家公務員と同等の給与体系(一般職の任期付研究員(若手育成型)と同等の処遇)による.

応募資格

- (1) 分子イメージングの知識及び分子腫瘍学に関する専門知識を有すること.
- (2) 大学院博士課程修了又は同等の研究歴を有すること.
- (3) 任用時において博士の学位を有すること.
- (4) 任用時において原則年齢 40 歳未満であること.

③所属・職名

重粒子医科学センター画像医学部放射薬剤
製造・開発室研究員(任期付) 1名

業務内容

- (1) PET 及び SPECT に用いる放射薬剤の創薬的な開発研究や新規合成法の開発及び動物実験による評価.
- (2) 新規標識・合成法の開発.
- (3) 上記研究に関する研究技術やノウハウの継承及び展開.
- (4) 有機合成関連業務の指導.

報酬

当研究所が独自に定めた、一般職の国家公務員と同等の給与体系(一般職の任期付研究員(若手育成型)と同等の処遇)による.

応募資格

- (1) 有機合成及び放射化学並びに PET 用放射薬剤の合成に十分な知識と経験を有すること.
- (2) 大学院博士課程修了又は同等の研究歴を有すること.
- (3) 任用時において博士の学位を有すること.
- (4) 任用時において原則年齢 35 歳未満であること.

提出書類 ①～③

- (1) 履歴書 (所定の様式あり)
- (2) 推薦書
- (3) 主要業績概要 (A4 判 2 千字以内)
- (4) 今後の研究の抱負 (A4 判 2 千字以内)
- (5) 研究業績目録 (原著, 総説, 学会発表別)
- (6) 主要論文別刷 5 編以内 (コピーでも可)

応募締切 ①～③ 平成 17 年 1 月 31 日 (月)

任用予定期間

- ① 平成 17 年 4 月 1 日以降のなるべく早い時期
- ② 平成 17 年 4 月 1 日以降のなるべく早い時期から 5 年間
- ③ 平成 17 年 4 月 1 日以降のなるべく早い時期から 3 年間

書類提出先

〒263-8555 千葉市稲毛区穴川 4-9-1
放射線医学総合研究所 総務部総務課人事係
TEL 043-206-3005 (ダイヤルイン)
E-mail personnel@nirs.go.jp
ホームページ <http://www.nirs.go.jp>

問い合わせ先 (職務内容)

- ① 特別上席研究員
須原 哲也 E-mail suhara@nirs.go.jp
- ② 重粒子医科学センター画像医学部主任研究員
小畠 隆行 E-mail t_obata@nirs.go.jp
- ③ 重粒子医科学センター画像医学部放射薬剤製造・開発室長
鈴木 和年 E-mail kazutosi@nirs.go.jp

**第 62 回日本核医学会関東甲信越地方会
演題募集のお知らせ**

日 時：平成 17 年 1 月 22 日 (土) 午後 1:00 (予定)

場 所：富士フィルム東京本社講堂

会 長：山崎純一先生 (東邦大学医学部附属大森病院)

演題締切：平成 16 年 12 月 17 日 (金) 必着

(演題名, 所属, 氏名) を下記のメールアドレスにお送りください。

演題送付先：〒143-8541 大田区大森西 6-11-1

東邦大学医学部附属大森病院 循環器内科

山 崎 純 一 先生 宛

TEL: 03-3762-4151 FAX: 03-5753-0269

E-Mail: yamasaki@med.toho-u.ac.jp